

# 開陽丸21世紀新聞

発行者  
・開陽丸青少年センター  
・開陽丸友の会  
北海道江差町字姥神町1-10  
TEL 0139(6)25522

## 獄中の「榎本武揚」

「国のため諸種の製造場を開いて  
実行したい」と山の「とくあり」と!!

獄中にあっても国を憂い、  
幕臣に失業対策を講ずる榎  
本。

ここで石鹼の製造法が唐  
突に出てきたからと云って、  
現代の物質文明の尺度から  
笑うことはできない。

外国船から伝染病が上陸  
し、石鹼が必需品なのだが、  
国産ができず、高い金額で  
輸入していた。榎本は製造  
のための装置を図で示し、  
苛性ソーダ混入の時間、材  
料の混ぜ方などを懇切丁寧  
に説明している。

家族からの差し入れの書  
物は、ほとんどが洋書で、  
化学や機械に関する学術書  
が多く、旧幕臣の身の上を  
案じている殖産についての  
科学知識をまとめたものが  
少なかった。



榎本武揚

### 榎本軍で収牢された幹部

揚 蕃 郎 門 介 吉 助	武 玄 太 左 衛 門 圭 磐 之	本 井 平 太 郎 鳥 岡 郁	榎 永 松 澤 大 松 荒	裁 行 裁 長 行 長 行	裁 行 裁 長 行 長 行	奉 館 総 長 行 長 行	箱 館 副 前 陸 蟠 海
---------------	-------------------	-----------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

獄中日記に会津の漆につ  
いての記述がある。

漆の樹から樹液を取る段  
階から樽に貯え、布の袋に  
入れて締め上げる工程、吉  
野紙で漉すまでをオランダ  
語交じりで記録している。  
朱色の漆には朱を用い、  
黒の漆には松の渋や麩粉を  
使って美しい黒を出すなど、  
コツまで書き込んでいます。

同様に、山漆の実か  
ら採るローソクは、栽培し  
た漆の実から採る蠟よりも  
白くて良質だと説明する。  
その採取法・製造法など、  
まるで職人の体験談をその  
まま筆記したような趣であ  
る。

次には製紙について、コ  
ウゾの木の説明から樹皮の  
蒸し方・干し方、晒し方、  
叩き方などを微に入り細に  
入り記録する。

紙漉きについても、荻の  
穂を馬の尾で編んだスタレ、  
紙漉きの枠に至るまで聞き  
書きと思われる細微な文章  
である。

そのほか、米沢で豆柿から  
渋を採る製法あり、大麦の  
「モヤシ」から水飴を作る製  
法あり、目に見えるように  
描いている。

また榎本は、家族に宛て  
た手紙に

- ①、温泉の湯を管でひいて  
野菜と花を栽培してみるこ  
と。
- ②、鶏とアヒルの卵の孵化  
をすること。

③、麻の種を蒔き茎から織  
維を採ること。

具体的方法として②の孵  
化器は、妻にも解り易いよ  
うにと図入りで、「上から見  
たところ」と書いてあり、  
最初卵箱の底に木綿布を敷  
くと書いていたのを、やは  
り沙の布の方がよからうと  
改めるなど指示がみられる。

箱に格子を作り、一つづ  
つ竹筒をしつらえ「卵が筒  
にじかに触れぬようラシヤ  
布を貼るよう」記している。

## 東京辰の口牢獄での生活

監獄は、細長い教室のよう  
な雑居房が並んでいた。  
一室には、おおよそ十人程  
度の収容で、いずれも強盗  
犯や放火犯の中へ、箱館戦  
争で戦った榎本軍の幹部七  
人が、一部屋に一人づつ逐  
次配置された。

夜の部屋には照明は勿論の  
ことローソクも無く、線香  
一本が与えられたようであ  
る。  
入浴は、『一と六のつく日』  
と決められていて、これが  
何よりも開放された、ひと  
時のようである。

榎本が初めて入室をした  
とき、見張り畳みを積み重  
ね、その上に威張って胡座  
（あぐら）をかいて座ってい  
た牢頭が、「新入りか。罪状  
と、姓名を申せ。」というど  
「箱館で戦っていた榎本だ。」  
と答えた。

一同驚き、顔を見合わせ  
さらに鶏は二十一日、ア  
ヒルは三十日ぐらいで卵に  
ヒビが入るから、ヒナがか  
えたら狐の毛皮などで保  
護し、「母鳥の腹の下に眠る  
ごとく」「生まれて一日は何  
も与えず一日経って水をや  
ること」と思いつくままに  
注意が続く。これは後日、  
北海道でキツネ・ラッコな  
どの飼育に引き継がれ、今  
日の毛皮産業の礎を築いた。

亜麻の栽培も実験結果を  
参考に、北海道で実行され  
ている。

榎本が自分の手で進めた  
かったものは、気象観測の  
方法や、電信・電話の普及  
ではなかったろうか。

それからは、榎本が牢頭  
にさせられてしまった。  
当時は、榎本と云えば牢  
中の囚人でも、みんな知っ  
ていたようであった。

明治二年九月十二日から  
榎本は熱病を病んだ。朦朧  
として人事を解せず、二十  
日以上寝たきりで食事も十  
日以上は喉を通らない。医  
師は熱心に看病をしてくれ  
た。十月十日に至って神氣  
を覚え漸くもとに復した。

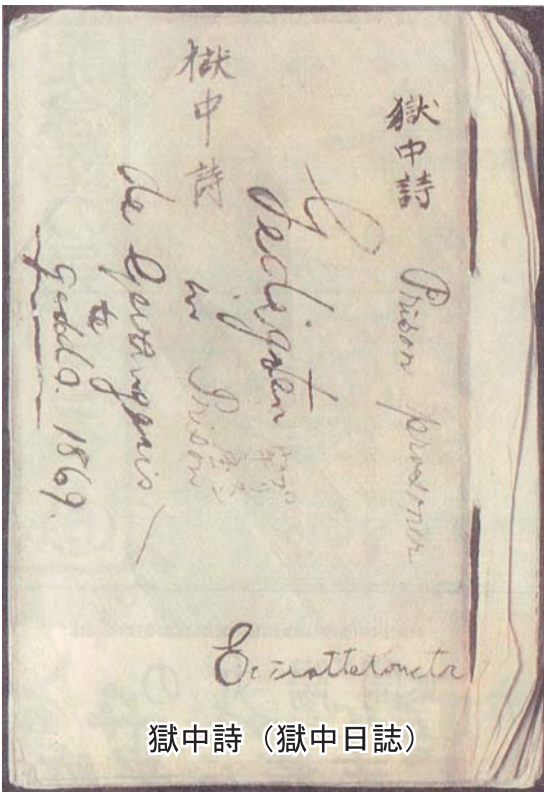
これとあい前後して松岡磐  
吉も体力も弱まり獄中で病  
死したのである。

この頃より牢の役人達も、  
我々に対する取扱に変化が  
現れた。

榎本は、同時に入牢した  
仲間の安否か心配になり、  
遂に大きな声でオランダ語  
や英語で話しかけた。返事  
によって誰が何号室にいる

のか、また元気かどうかを  
知る事ができた。  
また永井玄蕃に対しては漢  
詩で呼びかけたという。  
この声が大きかったので牢の  
役人から注意を受けた。し  
かし「仲間からは、絶望か  
ら救われた思い、と。」

これを、繰り返すうちに、  
役人達も言葉が解らないま  
ま「また唐人の寝言か」と  
叱りながらも黙認するよう  
になったという。



獄中詩 (獄中日誌)

## 妻 多津 (たつ) 宛ての手紙

一八七二年(明治五)正  
月二日、榎本武揚は、東京・  
辰ノ口牢獄から妻多津に、  
はずむ気持ちを押さえかね  
手紙を送った。

『ビールを沢山贈られ、昨  
日も今日もたっぷり飲んで、  
うきうきと新春を迎えた。  
お前も、あいかわらず丈夫  
の由、手前も寒さの障りも  
なく、ともに喜ばしい限り  
だ。』

今度こそは、一つのこと  
ろで朝夕いっしょに暮らせ  
ると思うので、待っていて  
ほしい。』と。

武揚が、うきうき  
しているのは、ビー  
ルに酔ったばかり  
でない。元旦に受け  
取った大晦日付けの  
新聞に「榎本釈放」  
の一記事が載ってい  
たのだ。



多津 (妻)

二年半の獄中生活から開  
放される事が決まり、出  
獄前祝いに貴重品のビール  
が届き、飲酒が行われた。  
さぞかし美味さが喉に染み  
たことだろう。もうじきに  
多津に逢える。やっと一緒に  
暮らせる武揚の喜びが短  
い文面にあふれている。  
六日、特赦で出獄し、親  
類宅で謹慎となった。多津  
が武揚に強く望まれて結婚  
したのは一八六七年(慶応  
三)十六歳になった三月の  
こと。武揚三十二歳だった。

# 開陽丸で発見された遺物 「ガトリング銃弾」

新春から、NHK大河ドラマ「八重の桜」が放映されています。会津戦争で、銃を背負って官軍と戦った山本八重をヒロインとして、戊辰戦争を取り上げたドラマです。

主演綾瀬はるかさんの演技や取り巻く出演者によって、今年一年は会津戦争や戊辰戦争への話題が全国的に広がるのではないかと予感しています。

歴史に興味ある方は、ドラマの中で戊辰戦争で使われた武器、特に銃や大砲のシーンが多く出ていることに目がいくことでしょう。

当町の開陽丸の展示室にも当時を物語る多くの武器や銃弾を見ることが出来ます。中でも、船内に展示している、ガトリング砲の模型には目を引きます。

当時国内には数挺しか存在しなかったといわれているガトリング砲は、なぜ開陽丸に……

展示物のうちでも特に話題性があります。開陽丸引き上げの遺物の中には、ガトリング砲の銃弾が展示されています。当会石橋會長の著書『開陽丸ルネサンス』には、ガトリング砲の謎として、山内六三郎の自伝や赤松則良の『赤松則良半生談』から紹介されています。

開陽丸の乗組仕官で、英語翻訳方見習いであった山

内六三郎（のち提雲）が明治39年の自伝の中に「……予が品海（品川沖）にありし時、しばしば横浜に來住し、暗夜、東艦（のち甲鉄艦という）（当時米国公使預かり中にて米人のみ乗組みあり）に乗り入れ、其積載の速射砲を始め銃器、弾丸等を荷船に移し、我艦に運搬せし事あり……」と書かれている。

これによれば、開陽丸が品川沖を脱走する直前に、山内六三郎らが得意の英語を使って、甲鉄艦に何挺か積み込んであったものから一挺持ち出して開陽丸に積み込んだことが想像される。

一方、赤松大三郎則良氏の『赤松則良半生談』幕末オランダ留学の記録（東洋文庫）にも、「……私は、今度蘭から帰朝の際クルップ会社製最新式6連発の大砲大・小を買い入れてきたが……」と記されていることを紹介している。

いずれにしても、現在展示されている開陽丸引き上げ遺物の銃弾、ガトリング砲の積み込みは、山内六三郎の速射砲（6連発）か、赤松大三郎則良の6連発か『謎』となっています。今後の研究を見守りたいものです。

尚、引き上げられている銃弾は、28発（開陽丸海底遺跡の発掘調査報告Ⅱ）

であり、砲本体は依然発見されていません。

開陽丸が江差沖で座礁沈没するまで、日数があつたといわれておりますので、当時としては貴重なガトリング砲はいち早く陸に引き揚げられたのかどうかについても興味を湧くところで

です。  
ドラマ『八重の桜』は4月には、鳥羽・伏見の戦いに突入でしょうか。山本八重の活躍に目を向けながら、銃や砲などにも注目して、この放映を楽しみたいものと思っております。

戊辰戦争での武器の数々は、その実物について開陽丸の展示でも確認できます。ドラマを見て、開陽丸の遺物から戊辰戦争の歴史を尋ねてみる。

ぜひ、この春は開陽丸に足を運んでみてはいかがでしょうか。

4月からは、施設も通常開館となっております。お楽しみください。



## 昨年江差町を訪れた開陽丸ゆかりの方々



桜友会皆さん館内見学



桜友会皆さん衣装を身に着けて



H24. 10. 17 子孫の会会長榎本隆充様と同窓会学習院桜友会三野副会長様他 46名



H24. 6. 11 沢太郎左衛門子孫の青木兄弟様



H24. 10. 1 末村攝津守子孫の埼玉スバル自動車(株)吉沢社長様 (30名ご来館)



H24. 8. 21 古川庄八子孫の清水ご夫妻様



H24. 8. 4 日本ハムファイターズB-B